

学籍番号 _____ 氏名 _____ 得点 _____.

解答には最終結果だけでなく、必ず導出過程を記述すること.

Q1: 1 モルの理想気体の初期状態の圧力と温度がそれぞれ P_0 , T_0 だったとする. この気体が準静的に膨張して体積が 3 倍になった. つぎの(1), (2)の場合にそれぞれ外力が気体に対してした仕事を求めよ. 気体定数を R とする.

(1) 圧力が一定の変化(20)

(2) 温度が一定の変化(20)

Q2: (1) $f(x, y) = x^3 \ln(2y)$ のとき, 完全微分 df を求めよ (10).

(2) 求めたdfが完全微分であることを示しなさい(10).

Q3: 以下はポアソンの式の導出過程を示したものである。(ア)~(オ)の空欄を答えなさい(8×5=40).

1 モルの理想気体を考える. 無限小準静的過程における熱力学的考察から $dU + PdV = 0$ が成立している. $dU = C_V dT$, $PV = RT$ を使い, 変数分離法の要領で両辺を積分すれば,

$$\int (\text{ア}) dT + \int (\text{イ}) dV = \text{const.} \quad (1)$$

$$C_V \ln T + R \ln V = \text{const.} \quad (2)$$

を得る. 両辺を C_V で割り, 対数の公式を使って左辺の2項を1項にまとめると

$$(\text{ウ}) = \text{const.} \quad (3)$$

になる. 次に, 比熱比 $\gamma = C_P/C_V$ を定義し, マイヤーの関係式(エ)を用いると

$$\gamma - 1 = \frac{R}{C_V} \quad (4)$$

を得る. (4)を(3)に代入し,

$$(\text{オ}) = \text{const.} \quad (5)$$

両辺の指数をとって(右辺は相変わらず定数), $PV = RT$ を使えば, $PV^\gamma = \text{const.}$ を得る.

(ア) _____ (イ) _____.

(ウ) _____ (エ) _____.

(オ) _____.